

平成 25 年度 食の安全ゼミナール I / 食の安全研究

レポート課題一覧

□ レポート提出要項

- ・ 各講師から示された課題の中から2課題を選択して作成すること
- ・ 字数：それぞれ2,000字以上
- ・ 提出期限：8月9日（金）
- ・ 提出方法：A4サイズでプリント、課題ごとに別々にホチキス止めのうえ、産学官民連携室へ提出。なお、各レポート冒頭に氏名、専攻（専修）名、学生証番号を必ず書くこと。
- ・ 問い合わせ先：産学官民連携室 03-5841-8882

■ 4月18日「食の信頼とフードコミュニケーションの役割」中嶋康博 教授（農業・資源経済学専攻）

- ・ 大学院生：食の信頼とフードコミュニケーションとの関係を考察しなさい
- ・ 学部学生：食の信頼を高めるために食品産業はどのようなことができるか、思うところを述べなさい

■ 4月25日「食品由来リスクの認知とコミュニケーション」細野ひろみ 准教授（農業・資源経済学専攻）

- ・ 大学院生：これまでに日本で行われてきたリスクコミュニケーションを事例をあげて振り返り、よりよくするために、研究者、消費者、食品事業者、政府は各々どう貢献できるか考えを述べなさい。
- ・ 学部学生：食をめぐるリスクへの対応において、リスクコミュニケーションはどのように貢献できるか、考えを述べなさい。

■ 5月9日「食品中に含まれる有害化学物質に対する生体の防御機構」清水 誠 特任教授（食の安全研究センター）

- ・ 大学院生：腸管の解毒代謝系と免疫系の①類似点および②相違点について、思うところを述べなさい。
- ・ 学部学生：食品を摂取することによって腸管での物質吸収性が変化する」という現象にはどのような意味があるか考えなさい。

■ 5月16日「ライフステージに応じた食品の作用」三坂 巧 准教授（応用生命化学）

- ・大学院生：日本における健康な高齢者（65歳以上）は2000万人を超えており、既存食品に対する要望は多く存在する。もし高齢者向け食品開発担当者になった場合、含まれる栄養素や機能性などについて、どのような技術的改善点を提案できるか、具体的な食品を一つ挙げて考察せよ。（特定の商品名ではなく、「炭酸飲料」「食パン」などのカテゴリーを対象とすること）
- ・学部学生：各々の日常の食生活を鑑みると、エネルギーや各種必須栄養素について、摂取不足・過剰摂取になっているものが多く存在する。日常の摂取栄養素について考察するため、ある連続した3日間に実際に摂取した食事を記せ。これを基に、どのような栄養素について積極的に摂取すべきかを考え、記述せよ。

■5月23日「食品のアレルギー誘発性評価」八村敏志 准教授（食の安全研究センター）

- ・大学院生：食品のアレルギー誘発性評価法について、その問題点も含め論じ、食物アレルギーのリスク低減法について考えを述べよ。
- ・学部学生：食物アレルギーの発症機構、および、食品中のアレルギー物質を含む「特定原材料」の検出法について、それぞれまとめよ。

■5月30日「栄養の食の安全-網羅的解析技術による安全性評価」加藤久典 教授（食と生命総括寄付講座）

- ・大学院生：食の安全研究において、動物や動物細胞を用いての網羅的分子解析を利用することは、どのようなメリットがあり、またどんな課題があるか、考察せよ
- ・学部学生：栄養素の欠乏や過剰のリスクを評価するうえで、また適正摂取量を検討するうえで、各種の網羅的解析をどのように活用できるか、説明しなさい。

■6月6日「エピジェネティック研究を基盤とした食の安全評価」廣澤瑞子 助教（応用動物科学専攻）

- ・大学院生：エピジェネティクス状況に影響をあたえる可能性がある身近にある物質を文献検索等で調べ、論じて下さい。
- ・学部学生：エピジェネティクス状況の異常が病気の原因になる可能性について、病名を挙げて、論じて下さい。

■6月13日「食品病原微生物と食の安全」関崎 勉 教授（食の安全研究センター）

（大学院生：1から3について、学部生：3つの立場から1つを選ぶ）

In order to minimize the number of patients suffering from food poisoning by enterohemorrhagic E. coli, what kind of action should the government do? Propose your original idea. (Graduate students: 1-3, Undergraduate students: choose one from the three)

1. 消費者に対して
 1. For consumers.
2. 食品等事業者に対して
 2. For food producers.
3. 法律や規格・基準の制定について
 3. For legislation.

■6月20日「動物の飼料と食品安全」杉浦勝明 教授（農学国際専攻）

- ・大学院生：飼料の原料の国際流通が増加している中で各国は飼料の安全性の確保が課題となっている。この課題に対処するための対策を提案せよ。
- ・学部学生：飼料の主なハザードを3つ挙げて、それぞれどのような対策がとられているか述べよ。

■6月27日「BSEと食の安全性」小野寺 節 特任教授（食の安全研究センター）

- ・大学院生：現在の日本のBSE対策について述べよ。
- ・学部学生：現在の日本のBSE対策について述べよ。

■7月4日「魚食の健康リスクとベネフィットを考えるーメチル水銀の毒性とセレンによる解毒機構ー」山下倫明 教授（水圏生物学専攻）

- ・大学院生：水産物のリスク管理における課題について例をあげて説明しなさい。
- ・学部学生：魚介類に含まれるメチル水銀の有害性について説明しなさい。

■7月11日「健康維持、増進という観点からの食の安全性」佐藤隆一郎 教授（応用生命化学専攻）

- ・大学院生：超高齢社会を迎える日本において、国民の健康を維持し、疾病発症を予防するために、食品の力の有効活用が必要である。このような食品の機能を介して、農林水産業の振興に結び付ける可能性について論ぜよ。
- ・学部学生：超高齢社会を迎える21世紀中半にかけて、いかにして医療費増加を防ぐことができるか。食品の働きも含め、多方面から論ぜよ。

■7月18日「栄養食品成分の腸管吸収及び相互作用」小林彰子 准教授（食の安全研究センター）

- ・大学院生：機能性食品の安全性に関し、これまでにどのような問題があったか具体例を挙げ、またそれらの解決策について考察せよ。
- ・学部学生：ヒト体内における医薬品ー食品、あるいは食品ー食品成分間作用について具体例

を挙げ、説明しなさい。

■7月25日「食の安全確保と植物病理学」 難波成任 教授（生産・環境生物学専攻）

- ・大学院生：食の安全確保に植物病理学が果たす役割について科学的側面と社会的側面に分けて自由に論じなさい
- ・学部学生：食の安全確保に植物病理学が果たす役割について自由に論じなさい